

# 図書委員会からのおすすめの本

本好きのための 本好きに捧ぐ本

1冊目 『漫画 君たちはどう生きるか』

10月11日(月)放送分

まず、1冊目は『漫画 君たちはどう生きるか』です。

この本は1937年に吉野源三郎という人が書いた小説が基になっていて 今なお多くの人に読み継がれている本です。

この小説はマンガ化された本で中学生の僕たちにも読みやすくなっています。主人公の本田潤一は、おじさんからコペルくんと呼ばれています。このコペルは、地動説を唱えたコペルニクスからとったあだ名です。このお話は協力して上級生に立ち向かおうと約束していた仲間を裏切ってしまったコペルくんが、おじさんとの対話やおじさんの書いたノートの言葉を読んだことがきっかけで自分自身を見詰めなおします。

僕はこの本を読んで友だちを大切にしようと思いました。友だちのことで悩んでいる人も 色々考えなおすきっかけにもなるようなメッセージがこの本には書かれています。

また 授業で道徳を勉強しているので、友達関係のことなど、道徳にも役立つ部分もあると思います。最初は難しいと思うかもしれませんが、読んでいくうちに少しずつコペルくん共感できる場所があると思います。



# 図書委員会からのおすすめの本

本好きのための 本好きに捧ぐ本

2冊目 『きみの臍臓をたべたい』

10月11日(月)放送分

2冊目は 住野よるが書いた『きみの臍臓をたべたい』 双葉社で出版された本です。

表紙は桜が印象的に描かれていて この本のタイトルから桜を連想する人も多いと思います。

内容は、春樹と桜良の出会いは病院でした。そこで春樹が1冊の本を拾うとそれは共病文庫という桜良の秘密の日記帳でした。そこから、余命宣告を受けた桜良と春樹の二人の物語が始まります。

桜良が春樹をよぶ名前も最初は「地味なクラスメート」から「秘密を知っているクラスメート」とだんだん変化していき、二人の関係も少しずつ近づいていきます。『きみの臍臓をたべたい』という題名も 読んでいるうちにわかっていき、最後の最後まで目が離せない切ない恋のお話です。

この本は映画やアニメにもなったので、知っている人も多いかもしれません。僕は映画も2回も見ました。

僕はこの本を読んで1日1日を大切にしようと思いました。

ぜひ 映画を見た人もまた読んでみてください。